

編集後記

日本で学び、働く異邦人は確かに増え、駅などの表示も日英だけでなく、中国語、ハングルが併記されることが珍しくなくなった。みんぱくの本館展示の解説やキャプションも、2008年度に始まった展示リニューアルを機に、和文と英文の両方で書かれるようになった。完全にバイリンガルで情報提供がされているわけではないが、以前に比べて、日本語話者でない来館者にも展示の意図がわかりやすくなっているかと思う。ピクトグラムや写真といった文字以外の視覚情報による案内の検証も進められている。

外国人を迎えるためのこうした環境改善は国内のあちこちでおこなわれているが、入国審査に関しては相当感じが悪い印象を残す国のひとつだろうと、空港を通るたびに思う。16歳以上の外国籍の人は、指紋と顔写真を取られ、歓迎されざる人物でないかどうかデータベースと照合されるのである。「おもてなし」しますと言って呼び寄せておきながら、門前でいきなり犯罪者扱いしているようなものである。「観光立国実現に向けたアクション・プログラム」の一環として、入管での生体認証はそろそろ廃止してもらえないものだろうか。(山中由里子)

●表紙：日本に暮らす多みんぞくな人びと。
「多みんぞくニホン」セクション導入部のバナーより
(撮影：庄司博史、菅瀬晶子、陳天璽、南真木人ほか)

次号の予告

特集 コラボの力

※みんぱくウィークエンド・サロンの情報は、13ページに移りました。

みんぱくをもっと楽しみたい 人のために—会員制度のご案内

国立民族学博物館友の会

本館展示の無料入館や特別展示の観覧料割引にくわえ、「月刊みんぱく」や会員機関誌『季刊民族学』などの定期刊行物や、毎月の友の会講演会、セミナーなどを通して多様な文化の情報を提供しています。

みんぱくフリーパス

1年間、本館展示へ何度でも無料で入館いただけます(特別展示は観覧料割引)。他にも、みんぱくを楽しむための特典がいっぱいあります。

国立民族学博物館キャンパスメンバーズ

みんぱくと大学等教育機関との連携を図り、文化人類学、民族学にふれる学びの場を提供することを目的とした会員制度です。

詳細については、一般財団法人千里文化財団までお問い合わせください。
(電話06-6877-8893 / 平日9:00～17:00)

月刊みんぱく 2014年8月号

第38巻第8号通巻第443号 2014年8月1日発行

編集・発行 人間文化研究機構 国立民族学博物館
〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園 10-1
電話 06-6876-2151

発行人 池谷和信
編集委員 山中由里子(編集長) 櫻永真佐夫 河合洋尚
庄司博史 菅瀬晶子 丹羽典生 丸川雄三
編集アドバイザー 山内直樹
デザイン 宮谷一 長岡綾子
制作・協力 一般財団法人千里文化財団
印刷 能登印刷株式会社

*本誌についてのお問い合わせは国立民族学博物館広報係にお願いします。
*本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

交通案内

- 大阪モノレール「万博記念公園駅」・「公園東口駅」下車、徒歩約15分。
- 阪急茨木市駅・JR茨木駅から近鉄バスで「日本庭園前」下車、徒歩約15分。
- 乗用車は、公園内の「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約5分。「日本庭園前ゲート」横にある民博専用通行口をお通りください。
- タクシーは、万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れてきます。

みんぱくホームページ

<http://www.minpaku.ac.jp/>

みんぱくフェイスブック

<http://www.facebook.com/MINPAKU.official/>

みんぱくツイッター

<http://twitter.com/MINPAKUofficial>

